

2023年度(令和5年度)学校評価自己評価表

東朋中学校区	校番 26	福山市立東朋中学校
最終更新日		2023年(令和5年)4月11日

I 福山市

ミッション ビジョン	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。
---------------	---

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容 ○コロナ禍で色々なことで努力してもらっているという意見を頂いた。 ○「子どもを育てる」という視点で地域と学校との関わりを増やしてほしいとの要望を受けた。 ○学校の様子が分からないので、様子が伝わるように工夫してほしいとの意見を頂いた。	児童生徒の現状 ○「学校に行くのが楽しい」「安心して通っている」と感じている児童生徒の割合は91.3%(校区平均)であり、安心・安全で学校に楽しみを感じながら登校している。 ○「目標や方法を選びながら学んでいる」や「考えること、学びが面白い」と感じている児童生徒の割合は84.0%(校区平均)であり、選択・決定したり、対話をしたりしながら自ら学びを進めている。 ○昨年度も、コロナ禍のため、児童生徒が対面して交流することができなかった。	育成する力 21世紀型“スキル&倫理観” ○課題発見解決能力 ○コミュニケーション能力(自己効力感) ○チャレンジ精神 ○思いやりと感謝の心(地域貢献)	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿) ○よりよく課題を解決し、自分の生き方に生かす ○互いを認め、よりよい人間関係を形成する ○自分に必要な挑戦を選択してやってみる ○人や社会の役に立てたことへの喜びや達成感を感じる	中学校区として統一した取組等 ○子ども主体の学びづくり(授業、児童生徒会活動、ボランティア活動など) ○体力や健康についての自己課題の解決 ○SDGs「住み続けられるまちづくりを」につながる生活科・総合的な学習の時間等の充実
--	---	---	--	---

III 自校

ミッション
社会に貢献できる自立した生徒(=「自立貢献」の生徒)の育成

学校教育目標
自立貢献の生徒の育成

育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	課題発見・解決能力	コミュニケーション能力	チャレンジ精神 (自己効力感)	思いやりの心・感謝の心 (地域貢献)
めざす子ども像	課題を正しく理解し、自分でより良い解決策を考える	お互いを認め、伝えあい、協力できる	工夫や努力で、成功させるために果敢に挑戦できる	いろいろなもののおかげで自分がいることを実感する

現状
<p><児童生徒> ○「読書を通して、考えの整理や伝える力が高まっていると思う」の肯定的評価は86.8%であった。生活の中で本に触れる機会が減少してきている中、朝読や休憩時間中に本に親しむことができていない現状がある。そのため粘り強く問題を読むことが難しく、読解力や想像力が不十分な生徒が多い。 ○学習に意欲が向かない、生活習慣の乱れなどから欠席する生徒が増加しており、不登校生徒出現率が6.4%と高くなっている。</p> <p><授業> ○「授業では、自ら学ぼうとしている」は94.3%、「授業内容はよくわかる」は87.3%、「授業では、自分の考えを共有する場や、仲間の考えから学べる場がある」95.3%と肯定的に捉え学習に取り組んでいる反面、昨年度の全国学力学習状況調査では国語正答率65%(全国平均69%)、数学正答率43%(全国平均51.4%)、理科41%(全国平均49.3%)と差が見られる。また、昨年度の学力の伸びを把握する調査では、第1学年の国語正答率52.4%(市平均56.0%)、数学正答率42.7%(市平均52.2%)で、第2学年は国語正答率51.4%(市平均52.2%)、数学正答率44.7%(市平均44.6%)、英語44.4%(市平均48.3%)と差が見られる。生徒の肯定的な捉えを学習意欲に繋げるとともに、「わかる」で終わるのではなく「できる」にしていくための授業づくりに努める。</p>

研究	テーマ	生徒一人ひとりの深い学びを実現するための主体的、対話的な教育活動の工夫
	内容等	○言語能力・情報活用能力の育成に向けた、単元指導計画の研究 ○教育活動全般を通じて育成する力(21世紀型“スキル&倫理観”)の向上
めざす授業の姿	<p>○どの生徒も主体的に課題を見出し、解決策を講じながら、より深く学びに浸ることのできる授業づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを整理し、論理的に表現できる場の設定。 他者の考えや意見に共感し、尊重できる集団づくり。 ICTを活用し、得られた情報を吟味し、正しい情報をわかりやすく伝える場の設定。 問題発見・解決能力育成に向けた、PDCAサイクルの充実。 各教科・領域がSDGsの視点で結ばれ、学びを通して自分、地域・社会の現状や将来を考えられる場の設定。 	

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)			
							□指標に係る 取組状況	70% 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期/中期経営目標の達成状 況	70% 評価	達成 評価	総合 評価
7	主体的に学 ぶ授業づく りの推進	★	継続	自ら課題を発見し、仲間と協力して解決しようとする“学びに向かう力”の育成	<ul style="list-style-type: none"> 教材研究に視点を置いた研究や研修を推進することで授業づくりの充実に努める。 考える必然性のある課題を掲示し、全教職員が主体的・対話的で深い学びのある授業を展開する。 生徒が自ら目標を決め、自ら学ぶ場を創造する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「授業内容はよくわかる」90%以上 各種調査の市平均以上 全国学力学習状況調査学力の伸びを把握する調査 実力テスト 英検BA, 各種検定の導入と活用 								
6	自己肯定 感・自己有 用感の向上		継続	一人ひとりとの承認欲求が満たされる集団づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> 午後学活での班会議の充実 全教員が各生徒への肯定的評価を積極的に行う 生徒会を中心として生徒が企画・運営する活動を増やしていく。 不登校生徒への対応の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 「学級内では、お互いの考えや意見が認められていると思う」90%以上 「先生は、自分のことを見てくれている」95%以上 不登校生徒出現率が全国平均以下(諸課題集計表) 								
9	安全で安心 できる学校 づくりの推 進		継続	生徒・保護者の学校満足度の向上	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの心に寄り添った生徒、保護者との相談体制や学級、学年の情報提供の充実を図る。 1日の時間外勤務時間を2時間以内にするように自己管理を徹底する。 	<ul style="list-style-type: none"> HP, Classroomを用いた情報発信 「安心して通っている」生徒100% 「安心して通わせている」保護者100% 勤務時間外在校時間が月45時間以内の職員100% 								